

学校名	山形県立加茂水産高等学校		
活動名	山形県の漁業及び加茂水族館に対応したプログラム開発		
教科	水産海洋基礎	漁業 課題研究 (総合的な学習の時間)	水族館学概論 (学校設定科目)
学年	1 学年	2 年	3 学年

高校1年 教科 水産海洋基礎 単元名 「山形県の漁業」 (4時間) 4単位

### 1. 活動のねらい

水産海洋基礎の第2章第2節水産業の歴史と現状 2-1 漁業の変遷の中に「山形県の漁業の変遷」と「山形県の漁業を支えた先人たち」の単元を追加し、山形県の漁業の変遷と現状を知り地元理解につなげる。

### 2. 実施内容

時	学 習 活 動	指導上の留意点
1	1 山形県の漁業の変遷 1) 江戸時代の漁業 2) 開拓の時代 3) 新しい技術を取り入れた時代	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～4人のグループ編成にする。</li> <li>・ 江戸時代からの山形県漁業について推測する。</li> <li>・ 関係図書・資料等を提示し、再度まとめる</li> <li>・ 漁業を通して当時の「海・漁港・町」について考えさせる</li> </ul>
2	2 山形県を代表する漁業の先覚者たち 1) 本間孫四郎 2) 菅原常次 3) 尾形六郎兵衛 (六代目・七代目) グループごとに調査・発表後 説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに図書館・電算室で調査させる。</li> <li>・ 3～4人グループでまとめさせ、発表させる。</li> <li>・ 左記3名の功績についてまとめさせる。</li> <li>・ 3名の人物像 (家系・末裔) について説明する。</li> <li>・ 時代背景と海・漁業との関わり方について考える</li> </ul>
1	3 山形県の漁業の現状 1) 世界・日本・山形県の漁業生産量 2) 山形県の漁業就業者数の推移 3) 山形県漁業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 3～4人のグループ編成にする。</li> <li>・ 世界・日本・山形県の漁業生産量を推測発表</li> <li>・ 最新のデータを示し、養殖の増加を理解させる</li> <li>・ 山形県の漁業の現状と特徴、今後の活性化策について考える。</li> </ul>

### 3 地域との連携

山形県の漁業 (漁業を支えた先人・先覚者たち) については、3年生の課題研究でも実施しており、地元の自治振興会や関係者の方々に聞き取りを行い、そこで得た情報を元に、末裔にあたる方のインタビューなどを含め総合的にまとめて資料として活用した。

### 4 成果と課題

山形県の漁業の変遷や現状については、ほとんどの生徒が知らなかった。また、地元漁業の先人・先駆者たちについても知っている生徒はいなかった。現在は、隣の水産試験場に本間孫四郎の胸像があり、戦後の地元を代表する代議士でもある7代目尾形六郎兵衛についても、漁業により水産実業界で活躍し国会議員として活躍したことをインタビューで得た情報も含め、生徒に紹介し地元が生んだ偉人について理解してもらった。また、地元加茂港の繁栄していた頃の写真や漁業で栄えていた時代についても触れ、海がもたらす恩恵について考える機会となった。

山形県の漁業・庄内浜の文化については十分な調査ができていない。今後も資料収集を継続して行きたい。

1. 活動のねらい

漁業 第1章 第1節 第2漁業の変遷 の中で「山形県の漁業の変遷」と「山形県の漁業を支えた先人・先駆者たち」の単元を追加し、山形県の漁業の歴史と現状を把握し、第3漁業をめぐる課題と展望につなげる。

2. 実施内容

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1	1 山形県の漁業の変遷 1) 明治から昭和初期まで 2) 昭和20年以降 3) 200海里時代(昭和52年から)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3～4人のグループ編成にする。</li> <li>・関係図書・資料等を提示し、調査しまとめる。</li> <li>・北海道・樺太・千島列島に出漁していたことを理解させる。</li> <li>・なぜ漁師が減ったのか考えさせる</li> </ul>
2	2 山形県を代表する漁業の先覚者たち 1) 本間孫四郎 2) 菅原常次 3) 尾形六郎兵衛(六代目・七代目) グループごとに調査・発表後 説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに図書館・電算室で調査させる。</li> <li>・3～4人グループでまとめさせ、発表させる。</li> <li>・左記3名の功績についてまとめさせる。</li> <li>・3名の人物像(家系・末裔)について説明する。</li> <li>・時代背景と海・漁業との関わり方について考える</li> </ul>
1	3 山形県の漁業をめぐる課題と展望 1) 山形県の漁業生産量 2) 山形県の漁業就業者数の推移 3) 山形県漁業の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山形県の漁業生産・就業者数の推移について質問し、データを説明する。</li> <li>・変遷を通して現状にいたった理由を考える。</li> <li>・山形県の漁業の特徴と今後の活性化策について考える。</li> </ul>

3 地域との連携

山形県の漁業(漁業を支えた先人・先覚者たち)については、3年生の課題研究でも実施しており、地元の自治振興会や関係者の方々に聞き取りを行い、そこで得た情報を元に、末裔にあたる方のインタビューなどを含め総合的にまとめて資料として活用した。

4 成果と課題

山形県の漁業の変遷や現状については、1年生の水産海洋基礎で少し触れている。漁業では、具体的にどのような漁業がおこなわれていたかを理解してもらう。地元を基地に漁業を行っていた小型漁船もいたが、先人・先駆者として知られている人たちは、北海道・千島・北洋を漁場にして漁業を行い財をなしていた。また、200海里時代とともに漁業が大きく変わっていった経緯についても理解させ、現在の状況について考えさせ、資源管理型漁業の必要性を理解させる。単純に漁船に乗れば魚が獲れて陸上より多い給料がもらえると思っている生徒もいて、現在の漁業についてビデオ等も使い理解させる必要を感じた。

山形県の漁業については十分な資料がなく、調査が不十分である。今後も資料収集を継続して行きたい。

高校3年 教科 課題研究 テーマ 山形県の漁業を支えた先人・先覚者たち(ポスター作成)

1 活動のねらい

本年度の海洋教育研究班のテーマは、山形県の漁業に功績のあった人物について調査し、ポスターにまとめ、先人たちを通して庄内の海・漁業を知り、その魅力を探ることを目的としている。加茂港を中心に山形県の漁業が発展してきたことを知らない人が増えてきている。加茂地域には当時の足跡が残っており、漁業

で地域が繁栄していた頃の資料を取集することは、授業や海洋教育の資料として貴重なものとなり、こどもたちの地域理解にもつながるものとする。

## 2 実施内容

週2時間の課題研究の時間を基本的に通年実施した。漁業貢献者としては、6名の候補があがり、最終的に4名に絞って調査を行った。資料が少なく、地元新聞の「郷土の先人・先覚者210」が一番まとまった資料として活用できた。調査資料をまとめ、子孫・末裔にあたる方にインタビュー・聞き取り調査を行った。残念ながら加茂水産高校創設や実習船鳥海丸建造にも取り組んだ菅原常治氏の末裔にあたる方は見つからなかった。本間孫四郎に関しては、長男で水産会社を営んでいる本間直弘氏から詳細に漁業や人物像に関する聞き取りができた。漁業に関する多大な功績もあり、生徒は近くにこのような人物がいたことに驚いていた。尾形六郎兵衛に関しては、六代目・七代目と2人おり、現在8代目尾形六郎兵衛夫人が加茂に住んでおり聞き取りを行った。六代目と漁業に関する内容はあまり聞けなかったが、七代目については、人物像について聞き取りができた。まとめに際しては、東京大学海洋アライアンス海洋教育促進研究センター加藤大貴特任研究員より指導助言を受けポスターを作製した。ポスターは、鶴南 SSH 中間発表会、海洋教育子どもサミット、全国海洋教育サミットでも発表を行っている。



本間水産株式会社代表取締役 本間直弘氏インタビュー

### 山形県の漁業を支えた先人・先覚者たち

「海を守る人づくり」 Protect the sea

山形県立加茂水産高等学校

**目的**  
日本の漁業発展に貢献し、山形県の漁業を支えた先人・先覚者たちについて調査・研究し、その人物を通して庄内の海・漁業を知り、その魅力を伝える。

**調査方法**  
1. 書籍・インターネットによる調査  
2. 本人・子孫等の関係のある人物等にインタビュー  
3. 関連企業本間水産(株)代表取締役本間直弘氏へインタビュー  
4. 八代目尾形六郎兵衛夫人(孫)へインタビュー  
5. 菅原常治(山形県長崎第一船政学校校長)資料提供を受ける

**調査・活動内容**  
① 本間 直弘氏 (山形県長崎) 明治37～昭和60  
② 尾形 六郎兵衛氏 (山形県長崎) 明治37～昭和60  
③ 菅原 常治氏 (山形県長崎) 明治37～昭和60

**考察**  
尾形六郎兵衛氏(山形県長崎)は、明治37年に長崎で生まれ、幼少時に山形県長崎に移住した。尾形氏は、漁業の発展に貢献し、山形県の漁業を支えた先人・先覚者として知られている。尾形氏は、漁業の発展に貢献し、山形県の漁業を支えた先人・先覚者として知られている。尾形氏は、漁業の発展に貢献し、山形県の漁業を支えた先人・先覚者として知られている。

**課題と漁業従業者の推移**  
漁業従業者の推移は、漁業の発展に伴って増加している。これは、漁業の需要が増え、漁業従業者の数が伸びたためである。これは、漁業の需要が増え、漁業従業者の数が伸びたためである。

**課題**  
漁業従業者の減少、漁業の持続可能性の確保、漁業従業者の育成などが課題となっている。これは、漁業の需要が増え、漁業従業者の数が伸びたためである。

## 3 地域との連携

ここ数年加茂地区自治振興会や住民の方に協力を得て、課題研究を行っている。できたポスターは校内の課題研究発表会で発表し、地元住民の方にも案内を差し上げている。また、2月に毎年行っている、加茂市民作品展に展示している。本年度は、聞き取り調査に際し、本間直弘氏、尾形澄氏、山口本晴氏（常福寺住職）より情報を頂き、加茂の文化遺産を愛する会の資料も参考にした。

## 4 成果と課題

山形県の漁業の現状はきびしいものがある。学校の授業でも漁獲量や漁業従業者の推移しか触れないため、漁業の変遷や功績を残した先人・先覚者については教員の裁量による。水産高校としては、地元漁業については触れるべき内容である。生徒にとっては、ポスターを作製するために「漁業」を題材とし山形県漁業の変遷や先人・先覚者を通して、庄内の海や地元の繁栄を学ぶことができ、課題解決型のすばらしい学習ができたものと思う。

# 山形県の漁業及び新加茂水族館に対応したプログラム開発

## 1年水産海洋基礎 山形県の漁業の変遷

## 2年漁業 山形県の漁業の変遷・漁業を支えた先覚者たち

### 【主な連携機関と内容愛学】

山形県庄内総合支庁産業経済部  
水産振興課（漁獲量データ・資料  
調査） 加茂地区自治振興会  
加茂住民

#### 【実践のねらい】

山形県漁業の変遷を理解する。

- 時数 通年 週4時間
- 関連 漁業
- 目標 開拓の時代・新しい技術を取り入れた時代の山形県の漁業を紹介し、漁業で繁栄していた庄内の漁港や日本海を知り、地元理解につなげる。

#### 【実践のねらい】

山形県漁業を支えた先覚者たち

- 時数 通年 週2時間
- 関連 水産基礎
- 目標 山形県漁業の変遷の中で、特筆すべき功績のあった人達について紹介し、現在の漁業、これからの漁業について考える。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
体験的な活動	1年生 4月 磯採集（2） 1年生 5月 鳥海丸 体験乗船（4日） 1年生 7月 海洋訓練（5日） 2年生 乗船実習（60日間） サンマ流し網実習 イカ釣り実習					1年生 磯釣り 2年生 短期乗船実習（日本海延縄実習 3日）							
探究的な活動	1年生 船の種類と役割・運航 2年生 乗船オリエンテーション					1年水産海洋基礎 山形県漁業の変遷 開拓の時代・漁業の先覚者たち・現状（3） 2年漁業 山形県漁業を支えた先覚者たち（3）					1年生 つくり育てる漁業 漁業・資源管理 水産物の流通・加工（20） 2年生 海洋環境と生物生産（12）		
表現活動	1年生 体験乗船作文（2） 1年生 6月 校内授業公開週間（4） 2年生 乗船実習作文					1・2年生 11月 校内授業公開週間（4） 2年生 漁業をめぐる課題と展望（2）							
習得した能力	<b>【1年水産海洋基礎】</b> ○磯採集・海洋訓練・磯釣り・カッター等により海に親しみ海を知ることができた。 ○実習船鳥海丸乗船により、海や海流・日出没など大自然に触れることができた。 ○山形県の漁業の変遷につて知ることができた。 ○日本の漁業史に残る山形県の先人・先覚者について学ぶことができた。 ○つくり育てる漁業、漁業・資源管理・水産物の流通・加工について学ぶことができた。					<b>【2年 漁業】</b> ○ 長期実習航海で漁労作業を体験し、漁業の実体験を行った。 ○ 漁業の先人・先覚者について学び、当時の海と現在の海を比較し、今後の山形県漁業のあるべき姿について各自提案した。 ○ 海の基礎知識・生態系・食物連鎖・生物生産力について学ぶことができた。							

## 山形県の漁業及び新加茂水族館に対応したプログラム開発

3年課題研究 山形県の漁業を支えた先人・先覚者たち(3S)

3年 水族館学概論 新加茂水族館に対応したプログラ(3R)

### 【実践のねらい】

漁業に功績を残した先人たちを通して庄内の海・漁業を知り、その魅力を探る。

○時数 通年 週2時間

○関連 漁業

○目標 3人の功績を残した人物について調査し、ポスターにまとめ今後の山形県の海・漁業について考察する。

### 【実践のねらい】

水族館学概論において新加茂水族館に対応したプログラムを作成する。

○時数 通年 週4時間

○関連 海洋生物・資源増殖

○目標 展示を行うための生物採集プログラム作成

### 【主な連携機関と内容愛学】

東京大学海洋アライアンス海洋教育  
促進研究センター  
加茂自治振興会 加茂地域住民  
鶴岡市立加茂水族館  
鶴岡自然学習交流館ほとりあ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
体験的な活動	3R 加茂水族館展示実習(12) 3R 学校祭ミニ水族館ブース設置					3R 海洋生物採集実習(8) 3R 淡水生物採集(8) 3S ポスターNO1作成				3S ポスター手直しNO2作成			
探究的な活動	3S 4月 テーマ設定(2) 5月 調査(8) 6月 水産試験場書籍調査(2) インタビュー質問事項作成(2) 3S 本間直弘氏インタビュー(2)					3S 尾形澄氏インタビュー(2)				3S 校内課題研究発表会			
表現活動	3R ボランティアガイド実習(8)					3S 10月 鶴岡南SSH中間発表(2) 3S 海洋教育子どもサミットin気仙沼発表(2日)				3R 各自魚種を調査プレゼン発表b 3S 全国海洋教育サミット発表(2日)			
習得した能力	<b>【3年課題研究】</b> ○山形県の漁業最盛期の状況を知ることができた。 ○漁業の先人たちをとおして、海・漁業と地域の強い結びつきを知った。 ○調査のやり方や質問の準備などにより、課題解決能力が向上した。 ○発表を通して、プレゼンテーション能力が向上した。						<b>【水族館学概論】</b> ○年間を通して、調査・採集・輸送・水槽レイアウト・パネル展示など水族館職員が行っている仕事内容を学習することができた。 ○川でのサンプリングや自然学習交流館とも連携し生物採集と展示実習を行い魚とのふれあいを通して、ますます興味関心を高めることができた。						